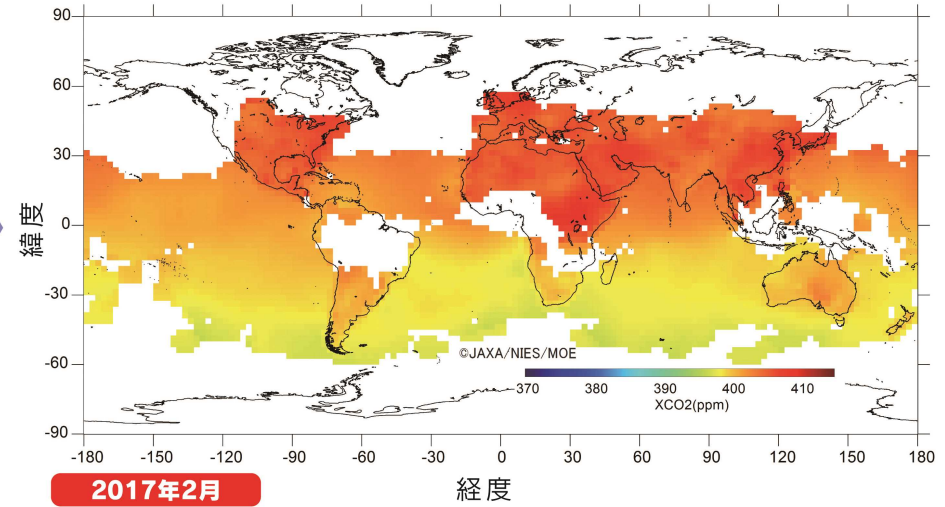
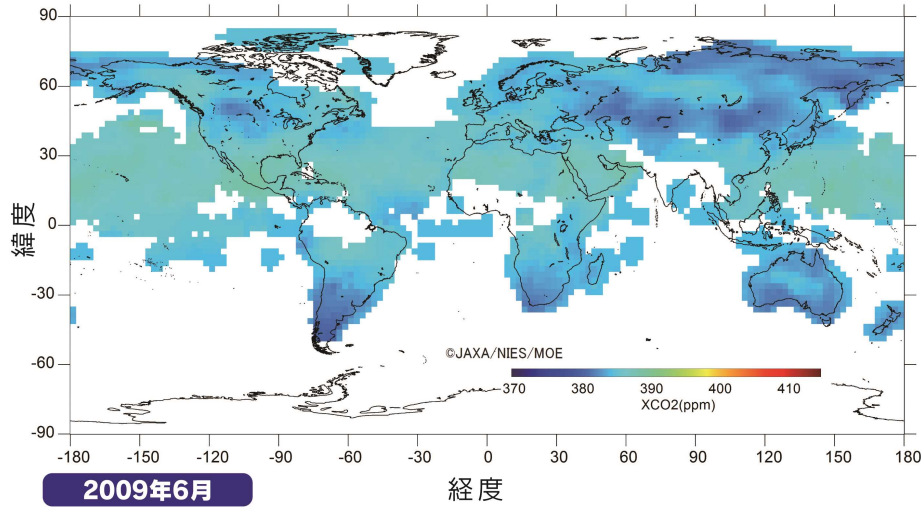


温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」による二酸化炭素濃度

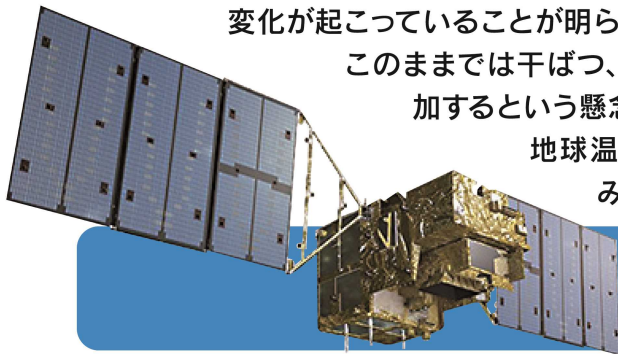


産業革命(1760年)以前280ppm程度だった二酸化炭素濃度は、現在年間2ppmを越えるスピードで増加し、2015年12月に400ppmを越えました。

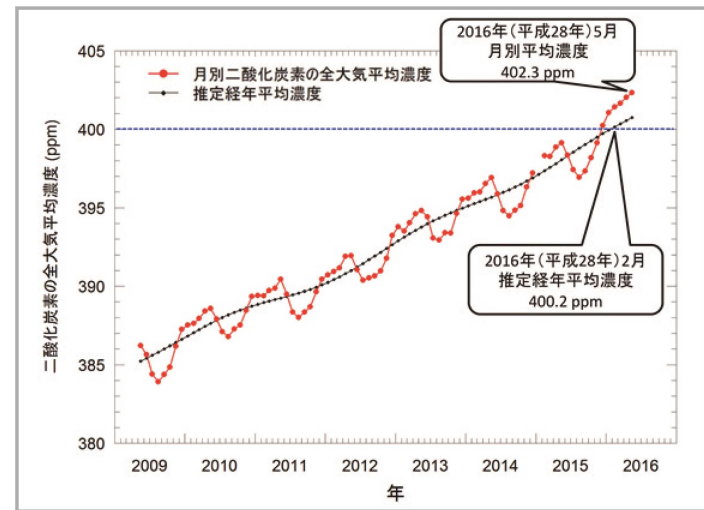
人類の活動により大気中に排出された二酸化炭素(CO₂)、メタンなどの温室効果ガスが原因となって地球温暖化が進み、平均気温や平均海面が上昇していること、また、気候システムに変化が起きていることが明らかとなりました。

このままでは干ばつ、熱波、洪水など極端な気象現象のリスクが増加するという懸念がますます強まっています。

地球温暖化を防ぐために、できることからはじめてみましょう。



「いぶき」は2009年1月23日に打ち上げられた人工衛星で温室効果ガスを観測しています。



JAXA及び国立環境研究所HPより